

10 下着どろぼうの正体は…



この巣は市街地の庭木に作られていたもので、木を伐採した際に回収されました。大きさは90cmもあります。さらに、この巣を見ると、びっくりするようなものが巣材に使われています。巣の産座（巣のくぼみの部分）の手前と奥に、なんと女性用の下着を使用しているのです。もしかしたら、この巣の作成者はベランダから洗濯物を失敬して、自分の巣を完成させたのかもしれませんが。下着泥棒はいったい誰なのでしょう？

平塚市八重咲町 径90cm×高20cm

犯人はトビです。トビは布やひもを巣材に利用するのが好きで、写真の巣では、下着の他にもいろいろ使っているのがわかります。他にも、ふだんなかなかお目にかかれない鳥の巣を紹介しましょう。



ヨシゴイの巣 横浜市
ガマに作成された巣を雛の巣立ち後を確認後採集したもの。ビニール紐は巣材ではなく、巣の形を保つために使用している。
径20cm×高15cm（巣部分）



セッカの巣（上、右） 茅ヶ崎市相模川河川敷
シナダレスズメガヤに作成された巣を雛の巣立ちを確認後採集したもの。下部のまるく膨らんでいるあたりに写真（上）のような巣がある。写真（右）の標本上部がすぼんでいるのは乾燥時の人為的なもの。この中にチガヤの穂をクモの糸で綴った巣がある。
径7cm×高10cm（巣部分）



オオルリの巣 清川村
巣の材料に多種の蘚苔類が使用されている。産座の部分に敷き詰められている黒っぽいものは主に根状菌糸束。
径13cm×高5cm（巣部分）



ヒヨドリの巣 秦野市
生垣のコノテガシワに作成されていた巣を剪定の際に回収したもの。巣の材料にビニール紐を使用している。
径15cm×高10cm（巣部分）

26 ふたつの価値をもつ資料



平塚市豊田宮下 片倉準作氏 寄贈 縦 165cm×横 135cm

着物の形をした紙です。和紙に細かい字がびっしりと書いてあります。年号も書いてあります。ちょっと読んでみると、明治19年の農業日記簿、同年の金銀出入控帳などの表題が見つかります。農業日記簿には、毎日の天候と農作業が細かく記され、当時の生活を知る貴重な資料になりえます。弘化4年(1847)や文久3年(1863)の文書もありました。

どうやって着物の形にしているのかというと、古文書を一枚ずつ糸で綴じ合わせています。ちゃんと衿えりの形もつくってあります。さて、この古文書でできた着物、ほんとうに着たのでしょうか？それとも何か別の使い道でつくったのでしょうか？

この資料は右写真の打掛うちかけを包んだ状態で寄贈されました。つまり、打掛の包み紙だったのです。

この打掛は、明治時代の中頃、互いに豊田村の村長を勤めた名家同士の婚礼で花嫁が着用しました。金糸きんしや銀糸ぎんしの刺繍ししゅうがほどこされた艶やかな色打掛あでです。当時、一般の家ではこれほど豪華な婚礼衣装を用意することはできませんでした。いかに大切な打掛であったか、古文書を糸で綴じあわせた包み紙からそれが伝わってきます。

文書は後世のために保管されたものばかりではありません。様々な形に再利用されました。この包み紙もその一例です。何も書いていない白紙を使うのはもったいなかったのでしょう。再利用されたおかげで歴史資料としての意味も持ちます。一方、民俗資料としては“古文書でつくった打掛の包み紙”という形態にこそ稀少価値があるのです。



打掛 (豊田宮下片倉準作氏 寄贈)